

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

3225 2026 年 9 月 6 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 16 主日)

司 式 者 井 殿 準

奏 楽 者 宮崎由紀子

前 奏	奏 楽 者
招 詞 詩編 95 : 1 ~ 3	司 式 者
讃 美 歌 12 「とうときわが神よ」	一 同
聖 書 マルコ 9 : 42 ~ 50 (新 P. 80)	司 式 者
使徒信条 (93-4-A)	一 同
祈 祷	司 式 者
讃 美 歌 453 「何ひとつ持たないで」	一 同
説 教 「十字架は塩味？」	司 式 者
祈 祷	〃
讃 美 歌 436 「十字架の血に」	一 同
聖 餐 式	司 式 井殿牧師
讃 美 歌 76 「今こそ歌いて」 (1,4,5 節)	一 同
献 金	〃
主の祈り (93-5-A)	〃
頌 栄 27 「父・子・聖霊の」	〃
祝 祷	司 式 者
答 唱 40-6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告	司 式 者
讃 美 歌 91 「神の恵みゆたかに受け」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「無視から無私へ」

(マルコ 12 : 28 ~ 34)

神から与えられた掟の中でどれが最も重要な掟なのか？ この問いに対して、主イエスは、全身全霊をもって「あなたの神である主を愛し」「隣人を自分のように愛しなさい」と答えている。神が我々に命じていることの中で最も大切な「命令」は、この二つであるということだ。我々は、今日改めてこの「命令」を耳にして、何を思うのだろうか？

「愛したい」と願っているのに、愛せない、愛し通せない我々である。それが出来ないところに、なお「愛しなさい」と命じられることで、我々はいよいよ心乱されることになる。しかし、なぜ我々は「愛したいのに、愛せない」のであろうか？

それは、我々が「わたし」「エゴ」を捨てきれずにいるからではないだろうか。だから、我々はいつも「愛したいのに、愛せない」という自己矛盾に陥り、心を乱さねばならないのだ。もし我々が「わたし」「エゴ」というものを捨て去るならば、「神を愛すること」「隣り人を愛すること」「自分を愛すること」が一つとなつて、我々の心には平和が訪れることであろう。

もちろん、それは言うほど簡単なことではない。しかし、我々は、主に愛されている一人一人である。独り子を十字架の上に死なせるほどの愛を我々はこの身に受けている。我々は「わたしを捨てる」ことに何を恐れる必要があるのだろうか？ 神は、「わたし」を捨てることが出来ずに、「愛したいけれども、愛せない」と心を乱す我々、隣人を愛さないばかりか、かえって傷つけたり、相手の存在価値を認めず、目の前の相手を居ない者であるかのように無視してしまう我々を愛してくださっている。我々が自分を愛する以上に、まず神が我々のことを愛してくださっているのだ。

神は我々の必要をすべてご存じでいらっしゃる (マタイ 6 : 32)。その神が我々を愛してすべてを備えてくださるが故に、我々は自分に執着しなくて良いのだ。そのことを信じて、エゴを手放す時、我々の内から愛が芽生え、同時に我々の心は平和に満たされて行く。それ故、我々は「わたし」を手放し、「最も重要な掟」に従うことを追い求めて行こう。